



千葉県を紐解けば、文化、芸術、学問といった分野で歴史に名を残した偉人の足跡を知ることができます。特に江戸時代には、日本全国に影響を与えた人々が数多く活躍しました。ここでは、現在の私達の暮らしにも親しみの深い偉人8名を厳選してご紹介します。

伊能忠敬

日本中を徒歩で巡る測量の旅を経て、初の実測日本地図を完成

49歳で伊能家当主を隠居後、10度にわたり日本全国の沿岸部を測量し完成した地図はヨーロッパでも高く評価され、幕末から近代にかけて日本地図の原点としての役割を果たしました。



小林一茶

平易な表現でユーモア溢れる俳句を数多く残した俳諧の徒

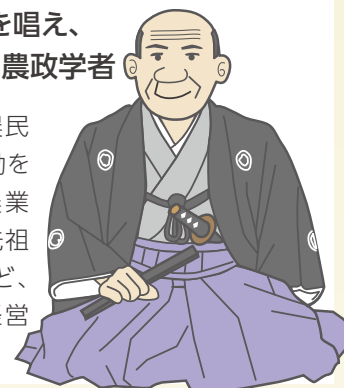
江戸時代を代表する俳諧師の一人。苦勞を重ねた人生を悲壯感ではなくユーモアでわかりやすく綴った俳句が広く一般に受け入れられ、約2万句の俳句が残されています。



大原幽学

独自の道徳「性学」を唱え、農村改革を主導した農政学者

現在の旭市を中心に農民の教化と農村改革運動を指導した農政学者。農業協同組合ともいえる「先祖株組合」を結成するなど、農民や医師、商家の経営を実践・指導しました。



武志伊八郎信由（波の伊八）

「関東に来たら波を彫るな」と言わしめた稀代の彫刻師

現在の鴨川市出身の彫工彫物大工で、寺社の欄間を飾る彫刻などを数多く手がけました。特に波の彫刻は躍動感に満ち、葛飾北斎の浮世絵「富獄三十六景神奈川冲浪裏」にも影響を与えたとも言われています。



行元寺 波の伊八欄間彫刻
波に宝珠 / いすみ市

佐藤泰然

国内医療発展の礎を築いた近代医学の先駆者

長崎で蘭学を学び江戸で「蘭医学塾和田塾」を開いた後、佐倉に移り、「順天堂」を開設。先進の医療を行うと同時に、医学界を担う人材の育成にも努めました。



青木昆陽

飢饉から人々を救い、芋神様、甘藷先生とよばれた蘭学者

江戸時代中期の儒学者・蘭学者。琉球、長崎から伝わった甘藷（サツマイモ）を現在の九十九里町と千葉市花見川区幕張で試作。普及に努めたことで、享保の大飢饉から多くの人々を救いました。



菱川師宣

絵画を一般大衆へ広く浸透させ浮世絵文化の元を作った絵師

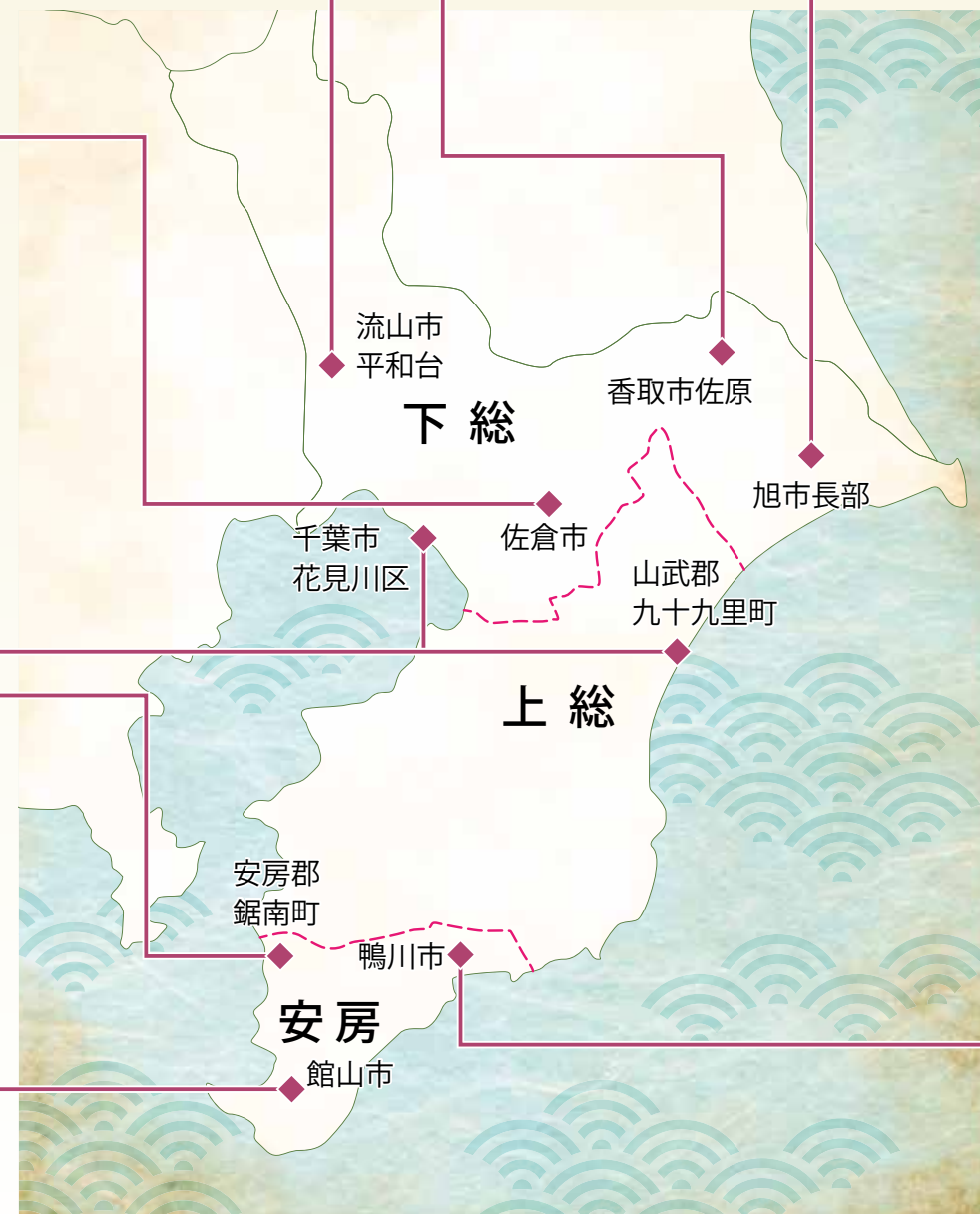
現在の鋸南町保田に生まれ、江戸で浮世絵版画というジャンルを確立しました。晩年は肉筆画も多く残し、代表作「見返り美人図」は傑作として郵便切手にも採用されました。



滝沢興邦（曲亭馬琴）

江戸から現代まで多くの人々を魅了し続ける日本小説の祖

曲亭馬琴とも名乗った戯作者で、安房国を舞台とした全106冊の長編物語『南総里見八犬伝』は江戸で熱狂的な人気を得ました。以来現代まで映画や舞台などで広く親しまれています。



※江戸時代の千葉県地図
◆印の地名は現在の地名